

別紙標準様式（第7条関係）

会議録

会議の名称	平成23年度第2回枚方市環境審議会 地球温暖化対策実行計画検討部会
開催日時	平成24年1月18日（水） 10時から12時まで
開催場所	枚方市役所 別館 特別会議室
出席者	部会長：三輪委員、副部会長：増田委員 稲森委員、今田委員、田中久雄委員、野田委員、丸井委員、水内委員、水丸委員
欠席者	田中みさ子委員
案件名	1. アンケート調査について 2. その他
提出された資料等の名称	資料1 アンケート調査の概要について 資料2 枚方市地球温暖化対策実行計画策定に係る 市民アンケート調査（案） 資料3 枚方市地球温暖化対策実行計画策定に係る 事業者アンケート調査（案） 参考資料1 平成23年度第1回枚方市環境審議会地球温暖化 対策実行計画検討部会での意見 参考資料2 枚方市地球温暖化対策協議会について 参考資料3 電力の排出係数の推移について
決定事項	・市民及び市内事業者に対して実施するアンケート案について審議した。
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍聴者の数	3人
所管部署 （事務局）	環境保全部 環境総務課

審 議 内 容

<開 会>

部会長： ただ今より、平成23年度第2回枚方市環境審議会地球温暖化対策実行計画検討部会を始めさせていただきます。委員の皆様方にはお忙しい中ご参集くださいまして、どうもありがとうございます。また、本日も活発な議論をお願いしたいと思います。

それでは事務局から本日の出席状況のご報告をお願いいたします。

事務局： 本日の出席委員数は9名で、2分の1以上の委員の出席をいただいておりますので、枚方市環境審議会規則第4条第2項の規定に基づきまして、本部会が成立していることをご報告申し上げます。なお、本日の欠席委員は田中みさ子委員です。また本日の傍聴者は3名となっております。

次に、本日の資料の確認をさせていただきます。

(資料確認)

<案 件>

部会長： 前回の部会での話し合いを少し思い出していただきますと、アンケート調査を実施するときに十分な検討がなく、そのまま進めていくのはいかなものかというご意見がございました。そういうことで、本日は部会を急遽開催させていただいているわけでございます。本日は事務局からアンケート案をご説明いただいた後、皆様方でご議論いただきたいと思います。他市の事例では、アンケートの調査結果と策定した実行計画との関連性が薄い場合が多く見られます。ですから、アンケートを実施した後、それがしっかりと実行計画のほうに生きてくるのがとても大事なことだと思っておりますので、その辺をご留意いただきまして活発なご議論をいただきたいと思います。

それでは市民アンケートと事業者アンケートの案をご用意いただいておりますので、順番に事務局から説明をお願いいたします。

事務局： (参考資料1、資料1及び資料2について説明。)

部会長： 今、初めて資料を見ていただきますので、内容を深めるために少し時間がかかるとは思いますが、参考資料1に前回の部会での話し合いの内容がまとめられております。そういうことも念頭に置きながら、それにこだわるわけではございませんが、アンケートについて大枠のところ、個別のところ、それぞれどんな点からでも結構ですのご議論いただければと思いますがいかがでしょうか。

委員： まず、どういう実行計画にしないといけないのかを考える上で、みんながどの程度の意識を持っているのか、前回もお話しましたが、地球温暖化は地球全体の歴史の流れから見たら、進んでいないという人もいます。

そういう人もいるということ把握する必要もありますし、意識を持っている人については、どういう行動をしているかを聞くことによって、その手立てというものも変わってくるでしょう。アンケートの中身は、実態といいますかハード面を聞いている部分が多いので、意識を聞いた上で、ハード面ではその人たちはどう行動しているのかを階層的に聞いていくのがいいのではないかと思います。そうでないと実際にハード面だけ聞いても、計画を検討しにくいかなと思います。

部会長： 確かにそうですね。例えば、地球温暖化はものすごく深刻なことだと捉えている人もいれば、そんなことは過去の長い歴史の中で経験したことではないかという人もいて、そこにすごく幅があるということですね。そういう意識を聞いた上で、そういう人たちが日常どういう行動を取っているか、あるいはまったく無視しているのかということも知りたいということですね。

委員： 「意識をしている」と思っている、実際の行動を考えてみたら「意識していなかった」という人もいます。そのあたりも見えていかないと、どういうところに絞っていったらいいのかというのが、なかなか見えてこないのではないかなと思います。

副部会長： 市民アンケートの13ページの「6. ご回答者様および自由意見についてお尋ねします」あたりに、「あなたは地球が温暖化していると思いますか」とか、「あなたは気温が上がっていると思っていますか」といった意識を聞く設問を設けたらいいかなと思います。そうすることで、アンケート調査結果を分析するときに、まったく意識のない人と、意識のある人を分類できますよね。

委員： 同意見です。今、おっしゃられたように意識をもっている方はアンケートにしっかりと記入していただけるとは思いますが、まったく意識のない方はこのアンケートすべてに目を通していただけないことも考えられます。はじめの入口のところで意識をもっている人か、もっていない人なのかがわかるような形にして、意識をもっている人に対しては、どこまでやっているのか、深く掘り下げていくように聞くのがいいと思います。

副部会長： 2,000人に対してアンケートを配りますので、意識をもっていない人の中には、はじめの設問で回答しない人もいます。それらの人からアンケートを返してもらうということを考えれば、アンケートの入口のところで回答する気がありますか、ないですかみたいところから始まってもいいかなと思います。

委員： 今皆さんが意見をおっしゃられているアンケートのやり方ですが、「イエス」か「ノー」を選んで、例えば「ノー」を選択した人は次に進みませんとかではなくて、確かに面倒ですが、やはりできるだけ多くの人に多くの設問に答えてもらえるようにした方がいいような気がします。始

めに、このアンケートを見たときに「関心ありません」という選択肢があったら、先の設問に進まないということになって、よくないと思います。それから、この市民アンケートは、最初に住居について聞いていますが、7 ページの「3. 地球温暖化防止の取り組みについてお尋ねします」にエアコンの使用時間のことなど、行動面について聞いています。市民に対しては、こういった設問から入るのがいいと思います。

委員： このアンケートはちょっと設問が多いように感じますが、回収率を上げるような仕組みを何か考えているのですか。

副部長： 前回のアンケート調査の回収率はどれぐらいだったのですか。

事務局： 地球温暖化対策地域推進計画の策定する際は、アンケート調査を実施していません。他市の事例で、50%程度という数字がありますので、それを目標に回収できたらと考えています。

委員： このアンケート調査が意識調査なのか、それとも実態調査なのか、どちらに重点を置いてアンケートを実施するかということが、曖昧な気がします。先ほどから意見が出ていますように、最初の設問は実態調査となっていますが、本当は市民が地球温暖化についてどれぐらいの意識をもっているかをまず把握して、そのことを踏まえて計画の策定に活かしていくのがいいと思います。このアンケートを作成するのはすごく大変だったと思いますが、根本的に構成を考え直したほうがいいのではないかと思います。

部長： アンケートについては、もちろん答えやすい、答えにくいということがありますから、実態調査の内容も含めて、この構成は少し検討の余地はあると思います。事務局としてはいかがでしょうか。

事務局： ある一定の実態調査は必要だと考えておりますが、委員の皆さんがおっしゃるように意識調査は非常に重要だと思いますので、ご意見をいただきましたとおり、前半に意識調査、後半に実態調査という構成にさせていただきます。

委員： 他市の事例では、アンケート調査を実施しても、その結果を計画・施策に反映していない場合があるということですので、ある程度、到達地点から逆算したようなアンケートを実施して欲しいと思っています。そういう意味でいうと、できるだけボリュームを削っていただき、枚方市ならではの施策に反映するためのアンケートにしていきたいと思います。

それと、今一番関心があるのはエネルギー問題だと思います。3.11 とか随所に織り込んでおられますけれども、今ちょうど節電中だということもあって、そのへんは市民の関心も高いと思うので、今ならではの設問を取り入れたアンケートにして欲しいなという希望があります。

委員： 今回のアンケートの設問の中には、理解できる部分もあります。例えば、

二重窓は、市民の人が見たときに、我が家でもしてみようかなと思うか
もしれません。しかし、例えばアンケートの 5 ページで、テレビの種類
がブラウン管か液晶かプラズマというのは、調べる必要があるのでは
ょうか。

委員： そういのはカットすべきだと思います。

委員： アンケートの設問の中には、本当に調べたいところもあると思
います。意識ばかり調べるのではなくて、せっかくのアンケートですから、い
くらかでもデータとして把握したいという部分も当然あると思うので、そ
れがどの部分かということで考えたらいいと思います。ただ、一戸建て
だったら二重窓を設置している家が多いのか、新築だったら多いのかと
いうのがあって、補助制度を利用してもらうというようなところに持ち
込んだらいいと思います。9 ページには補助制度とか買取制度とか書い
てありますが、これらの制度を知っていたらやるかもしれないので、あ
まりこうしたことをやるとアンケートではなくて、好きなのところに導き
出してしまうことになってしまいます。

委員： 今のご意見だと啓発的な意味合いも色濃くしたアンケートをしたらどう
かということですよ。

委員： そうではありません。啓発になってしまったらまずいということをし
ているのです。

委員： でも、先ほどの発言で、二重窓というのもあるんだなということに気づ
く人もいるので、いいのではないかということをおっしゃられたと思
うのですが。

委員： 大阪弁的でややこしいのですけれども、補助制度とか二重窓とか啓発
的なものも欲しいなと思うのですが、あまりそちらのウエイトを高くする
とアンケートの意味がなくなってしまって、誘導しているようになって
しまいます。

部会長： アンケートでは誘導の意図が見え過ぎてはいけないということですね。

委員： 具体的に聞いてしまうと、誘導性が強くなり、現状を聞くと客観性が強
くなりますので、両方必要だと思います。

部会長： 他はいかがでしょうか。

委員： アンケート項目が細かいので、やはりこれだけの内容のことを質問して
いくと、回答率が非常に落ちるだろうなと思います。そうすると回収率
を上げるための構成を考え直さないといけないと思います。

先ほどおっしゃられていた話でいうと、テレビの台数などはここまで分
ける必要があるのかとか、暖房機器についても、例えば室内を全部暖房
にするのか、床暖房なのか、あるいは局所暖房なのかといった区分にし
たらいいと思います。あるいは電気と灯油・ガスとかのエネルギー源で
分けるというやり方もあるのかなと思います。また、回答の選択肢や質

問内容について、もう少し量を減らさないと答えてもらいにくいかなとも思います。

それから意識の部分なり、今やっている取り組みの部分というのはやはり入口として必要な話だと思います。あまり細かい実態の話が前に出ていると、それだけで拒否感が出てしまうということがありますので、ここからどう削って、必要最小限に抑えるのかという視点で、回収率を上げるために質問項目や回答の選択肢を絞り込んだらいいと思います。細かい啓発的なものは、記入要領や参考となるコラム的なものとして、入れ込んでいくという方法もあるのではないのでしょうか。

事業者アンケートについては、この程度の量であれば、市がお願いしているから協力してもいいよという事業者もいると思いますが、市民の方はなかなか大変な作業だと思いますので、アンケートの目的を踏まえて、うまく設問を並べ替えたり、絞り込みをするということが必要になってくると思います。

事務局： 委員の皆さまからご意見を踏まえまして、最初に地球温暖化に対してどういう思いを持っているかというような設問にさせていただきたいと思います。その次に、地球温暖化防止の取り組みに関して、聞かせていただいて、その後、住居等についてももう少しコンパクトにまとめていく方向で検討したいと思います。ただ、交通については、カーシェアリングやレンタサイクルなど、今後の施策展開を視野に聞いていきたいと考えております。

委員： このアンケートには、前文のようなものをつくられるのですか。今、提示していただかなくても結構ですが、その前文に、アンケートを実施する背景や趣旨について触れるべきかなと思います。

事務局： 今回の市民アンケートでは、地球温暖化対策実行計画を策定していくにあたって、家庭における意識や実態を把握し、計画の策定の基礎資料として活用させていただきたいというようなことを書く予定にしています。

部会長： アンケートの前文にはあまり文字数は込められませんが、是非とも書いてくださいというような感じで、市民や事業者に返してもらえるような書き方をしないといけないと思います。

ただ、アンケートの内容は文字数がすごく多く感じてしまいましたが、結構写真が入っていたり、解説も多いので、見た目よりは設問数はさほど多くないかもしれません。

他の委員の皆さんはいかがですか。

委員： 大枠はだいたい皆さんのご意見と一緒にですが、気になっている点があります。

一つは、現在の取り組みと将来的な取り組みというのが、もう少し明快

に見えた方が意識との関係もわかるかなということがあります。
いろいろな温暖化に関する情報に対して、知っているか、知っていないかという大きな話が何もないうまま進んで、エコチェックのようなものを手早くやるのはいいと思うのですが、そのへんの整理ができていない気がします。

大事なのはいろいろな情報を知っている中でも、何を個人として取捨選択して行動しているのかということがあると思います。私自身を考えても、これはできるけれどもこれはできないとか、これは頑張るけれどもこれは頑張れないというような、何か判断基準になっているものがあると思います。何に左右されているかというところが見えないと、市民に行動してもらおうとするときにどんな手立てをすればいいのかがわからなくなります。例えば、お金がかかるからやっていないのか、一人でやっても仕方がないと思っているからやらないのかなど、皆さんの意思の中に何が大きく作用しているかを見たいなという思いが非常にあります。その上で、カーシェアリングなどはすごくハードルが高い話に聞こえます。一般的には、一人でできることと、みんなで協力しないとできないことがあって、そのあたりの整理とか、聞き方の順番というのが大事かなと感じています。

事務局： 確かに、カーシェアリングやレンタサイクルは、こちらでもまだ設問を整理しきれていない部分があると認識していますので、例えば、家の近くにあれば利用してみたいとか、最寄りの駅にあれば利用してみたいといった選択肢を追加していきたいと考えております。

委員： 今すぐにでもできることと、今後できることとの整理ができた方がいいかなと思います。

委員： そういう意味では、7ページの地球温暖化防止の取り組みについていろいろと設問がありますが、どういう理由で取り組んでいないのかということを押さえておくべきだと思います。ただ、個別の事例によって行動できない理由というのはそれぞれ違うでしょうから、その理由は1個ではなくて、複数回答がいいと思います。できない理由をきちんと押さえてかないと、施策を展開していきにくいかなと思います。

委員： 7ページの地球温暖化防止の取り組みについてですが、難しくてわからない言葉もあります。例えば、カーボンオフセットは、カーボンフットプリントとのことですか。

事務局： カーボンオフセットはカーボンフットプリントとは違います。8ページにカーボンオフセットの語句説明を書いています。確かにわかりにくいところもあると思います。

委員： 打ち水だとよくわかるのですが、カーボンオフセットと聞いて、人によっては捉えるものが違うことがあると思います。里山保全活動に参加し

ているとか、緑のカーテンづくりというのは非常にわかりやすく身近に感じることができますが、レベルの高いものが混在しているので、回答できるものとできないものがあります。

部会長： 確かに最近是这样いった専門用語が増えてきています。

委員： レベルに違いがあるので、選択肢に「知らない」というのが必要ではないでしょうか。

副部会長： 8 ページのカーボンオフセットの説明を読むと、宅配便サービスやオフセットはがきなどのことが書いてあるので、「こういうものもあるんだ」ということを初めて知る人も中にいると思います。また、今は知らなくても、今後取り組みたいという人もいると思います。

アイドリングストップに関する設問ですが、オートマチック車の場合だと、すごくやりやすく感じますし、実際にやると危ないときがあります。ですから、アイドリングストップというのは、車によってやりやすさが違ってきますので、事業者には必ずあったらいいと思いますが、市民に対しては、荷物を積み過ぎないなど、エコドライブのことを聞く方がいいかなと思います。

委員： 7 ページの 18 項目はどんな基準で抽出したのでしょうか。

副部会長： 8 ページ以降の設問とは、記入方法が違いますが、何か意図があるのでしょうか。全部 7 ページのような形で聞けば、後から解析をするときも都合がいいかなとは思いますが。

事務局： 7 ページについては、現在実施している取り組みを中心に現状を把握するために聞いています。それにより、今後どのような展開が必要なのかを検討できると考えております。

また、8 ページ以降は、今後実施したい取り組みを聞いています。省エネナビについては枚方市から市民に貸し出すことを想定しています。太陽光発電については、メガソーラー10 基分の発電を市民とともに実現しようという施策を今展開しているので、それに関わる設問です。市民共同発電についても、市民はどのように考えているかを聞いてみたいということですが。

副部会長： 細かいことですが、7 ページの「18 夏季には軽装など季節に応じた服装で過ごすようにしている」とあるのですが、夏季だけに限定しない方がいいと思います。

委員： 簡潔にまとめていますけれども、表現内容で気になるところがありますし、こう聞かれたら困るなというような設問があります。

部会長： そうしましたら、市民アンケートの全体の構成については、皆さんからごだいたい意見をいただくことができたと思います。アンケート調査票は、どうしてもページ数が限られていますので、いろいろと入れ込んだアンケートにすることができるかという非常に厳しいとは思いますが。

市民アンケートの大枠について皆さんにご発言していただいたこと以外に何もなければ、細かい文言の修正等については、1週間以内に事務局にその内容をお返ししていただくということではいかがでしょうか。通常でしたら、事前にプレテストをして、答えられるかどうかをチェックする方が望ましいと思いますが、そのへんは少し精査していただけたらと思います。よろしいでしょうか。

各委員： (了承)

部会長： 2ページから6ページまでの実態調査についてですが、例えば市民モニターを対象にもっと詳細に調査することはできるのでしょうか。

事務局： 一般の市民の方には細かすぎることがありましたら、この場で判断することはできませんが、市政モニターを対象にエネルギーの消費量などのアンケートを別に実施することも考えられます。

部会長： それも一つの方法ですね。ここで実態調査をするのはどういう意味があるのかということですね。調査結果から読み取れたものが、例えばCO2削減量を算出するデータの基礎になるのかということ、そこまでは難しいと思います。ですから、ここはもう少し軽くすることはできるかもしれません。

委員： 企業によっては、安全のために所有機器情報を持っている場合がありますので、ここまで詳細に家庭で使用している機器を聞かなくてもいいと思います。ただ、個人情報なのでどこまで提供できるかという問題はありますが、ある程度の数字は把握できると思います。

副部会長： 機器の導入状況がわかる場合があるということですね。

委員： どんなガス機器を使用していますかと聞かれても、普通はあまり意識していません。機器名をいわれてもわかりませんから、そういう意味では企業の方が正確なデータがあると思います。

副部会長： 13ページの「あなたの年齢をお答えください」という設問で、例えば60歳以上と答えたとします。この場合、家族構成が全然わからないことになって大丈夫でしょうか。ご家庭が60歳以上の2人だけの構成のときと子どもを含めて4人いるときの取り組み状況では違いが出てくると思います。

部会長： その属性を聞くかどうかは、アンケート全体の流れの中で、もう一度考えていただきたいと思います。

委員： 先ほど、ある程度の実態把握は必要だということでしたが、それは施策のどの部分に必要なのかわかりません。例えば、エネルギー消費を抑えたいという意図が明確にあった場合、エネルギー消費を抑えるための手立てを考えると、どのような電気製品やガス製品が家庭で使われているのかなどの実態把握はしないといけませんが、そこを明確に意識して把握していくべきなのではないでしょうか。

- 副部会長： 他市でアンケートを実施したときも人数だけを聞いています。その中で、3人、4人、5人、6人というようにお住まいの状況の違いによる標準的なエネルギー使用量をリストにして、ご家庭にお配りしたのです。すると、その標準的な数値よりエネルギー使用量が高ければ、どこが減らせるのか、何ができるのかというようなことを考えるきっかけになったということがあります。
- 副部会長： 今回のアンケートには、家族構成はおそらくいららないと思いますが、もっと精密に分析するときにはそこまであった方がわかりやすいと思います。
- 委員： 今おっしゃられたようなデータを枚方市から皆さんに発信することで、一人でも多くの人にエネルギーを減らす行動へ移行してもらおうという意図があるなら、もう少しそのところをわかるようにやっていかないといけないと思います。
- 副部会長： 今回のアンケートでは、家族構成はいらないかもしれませんが、いずれはそういったことを念頭にできればいいかなと思います。
- 部会長： 今のお話を聞いていると、行動を変えてもらうための明らかな意図が含まれていますので、今回のアンケートで、そういったことを含めるかどうかは検討の余地があります。将来的にはそういうのがあってもいいと思います。
- 副部会長： できれば、せっかく実施するアンケートなので、皆さんはこういうことができますよというような情報を提供することも考えられます。また、高効率給湯器の普及率が非常に悪ければ、今後の普及に向けての参考データとして、実態調査は活用できると思います。
- 委員： 2ページの間6で、断熱材の使用について聞いていますが、古い家だとわからないと思います。新しい家でも知っている人がいるかどうか。
- 副部会長： 「わからない」という選択肢がありますので、そのような方はわからないと答えると思います。
- 委員： それから3ページの間3にある給湯器について、次のページに細かい説明が書いていますが、こういうものを読まないで回答できないような設問でいいのですか。
- 事務局： おそらく実際に使用している人が見たら、わかると思います。
- 委員： 私が使用している給湯器についてはだいたいわかるのですが、他の人が答えるときは難しいかもしれません。
- 副部会長： 6ページの間9の照明器具の個数も一生懸命調べないと自分の家の蛍光灯の数とかわからないと思います。「もういいや、ここで」とストップしてしまう可能性があるかと思います。
- 副部会長： それと、3ページの間2で、普通の石油ストーブ、灯油ストーブがないのはどうかと思います。そういうのもないと非常に答えにくいのではな

いでしょうか。

委員： 同じく、3 ページの間 2 で、使用していない場合、すべて右側に丸をつけないといけないので、集計するときに、わかっていないのか、使用していないのかが非常に曖昧になってしまいます。「②使用していない」はいらぬのではないのでしょうか。

部会長： アンケートを作成する側としては、非常に悩みながら大変な作業をいただいていると思います。また、そういった中で本日いただいたご意見を参考に、すべて盛り込むことは非常に難しいことと認識しておりますが、何とか工夫して修正いただきたいと思います。

ところで、このアンケートはいつ発送の予定でしたか。

事務局： 2 月の中旬には発送したいと考えています。

部会長： あと 2 週間ぐらいですね。修正していただいたアンケートをもう一度見ていただくという手続きはどうされますか。後は、事務局にご意見を聞いていただいたということで、まとめていただきましょうか。

委員： 細かいところですけれども、12 ページの交通の間 4 にエコドライブ、間 6 にカーシェアリングというのがあります。このあたりの語句説明も加えていただきたいと思います。また、7 ページと比べると、このあたりの設問は大雑把になっているような気がします。

事務局： 語句説明も必要に応じて追加させていただき、再度、選択肢も含めて見直しをさせていただきます。

部会長： それでは、細かい文言修正等についての意見は、メール等で事務局にお送りいただくことでどうでしょうか。

委員： 10 ページの間 8 で 1 つだけに○印をつけるというのは、難しいと思います。

部会長： 複数回答にして欲しいということですか。

委員： 複数回答にするのか、あるいは一つひとつについて、非常に強く意識している、あまり意識していないというような聞き方にするのかは、全体との関係もあるので、あまり負担のないようにしていただけたらと思います。

委員： 今の 10 ページの間 8 のところで、意識変革についてお尋ねしますという表現になっています。意識変革があったということが、当然というような感じで聞いているようなところもあるので、「東日本大震災以降、エネルギーや電気の使用についてあなたの意識は変わりましたか」というような聞き方がいいのではないかと思います。

委員： 10 ページの間 8 ですが、「②使用している電力が、どのような方法で発電されているかを意識するようになった」という選択肢は、他の選択肢とトーンが少し違うように思います。どちらかという、節電の要請が影響している部分が選択肢の①と③と④だと思えますが、②は原発事故

による影響が色濃いと思われます。ですから、「あてはまるもの1つに○印をつけてください」といったときに、読みにくく感じてしまいます。

部会長： それもご検討ください。

委員： 文言に関するのですが、地球温暖化対策実行計画を策定するということなので、最終的な目標はCO₂削減というところがあると思います。しかし、「省エネ」という表現はありますが、「CO₂削減」という表現はありません。例えば、使われる電気が太陽光発電によるものであればCO₂排出量はゼロですが、電気やガスの燃料を使うとCO₂を排出してしまふことになります。また、発電方法が異なれば、当然同じ省エネ機器でも排出するCO₂は違うことがあるので、「省CO₂」という言葉が必要に応じて使用して欲しいと思います。当時の菅首相は25%削減ということ掲げ、原子力を推進する方向で地球温暖化対策を考えていましたが、現在はそういったことはいわれなくなりました。今は、わりと地球温暖化対策をないがしろにしているところもありますので、「省CO₂」という言葉も入れた方がいいと思います。

委員： 最近気になっていることがあります。電気の使用量のお知らせが毎月送られてきますが、使用量の比較は前年比になるのですか。

副部会長： 昨年と同じ月との比較になります。

委員： 前年度より使用量が減ったということはわかりますが、電気料金が急激に上がったらどうなるのでしょうか。使用量が減っても、使用料金が増えるかもしれません。

部会長： 例えば、CO₂は何%削減とか、使用料金は何%削減、使用量は何%削減とかあれば、お知らせを興味深く見ることができるかもしれませんね。

委員： 余談になりますけれども、例えば対前年比でCO₂はどうなっているかということになれば、昨年であれば原発が稼働していたので、CO₂排出係数が小さいと思われます。今はご存じのとおり、ほとんど火力発電になっておりますので使用量は減ったとしても、CO₂排出量は増えてしまふということがあるかもしれません。

委員： 電気の使用料金のこといわれると、私たちにはどうしようもない部分がありますが、市民としては使用量が減ったことを単純に喜んでいます。

部会長： 使用料金、使用量、CO₂排出量という3つ指標があって、どれを減らしていったらいいかという、ここではCO₂排出量を減らしていくという議論になります。

委員： 市民の立場からすると、CO₂排出量を減らせといっても、それはどうしようもない部分があると思います。しかし、市民として、使用量を減らすというのはできます。CO₂排出量を減らすためには、太陽光発電を増やしたらいいけれども、はっきりとした数字はわかりませんが、あと15年はかかるといわれています。使用量の削減は、すぐにできる指標とし

てはわかりやすいと思います。

副部会長： 排出係数を使用量にかければ、CO₂ 排出量がでますが、参考資料 3 の排出係数が、例えば平成 18 年や 17 年の数字になってしまうと、省 CO₂ ということにはなりません。

委員： そのあたりのこともよくわかっているのですけれども、市民としてどうしようもない部分もあると思います。

副部会長： そのこのところはわかりにくいですね。

部会長： 確かに、そのこのところは、もう少し整理していかないと、市民が判断しにくいということでしょうね。

副部会長： 「省エネ」と「省 CO₂」というのを使い分けて、ここに記載されたいと思います。

委員： そのように使い分けたいと思いますが、使い分けてしまうと市民としてはわかりにくくなる部分があるのではないかなと思います。

委員： すべてに「CO₂」の表記を入れて欲しいというわけではなくて、このアンケートには「CO₂」の表記がありませんので、どこかの部分で、必要に応じて「CO₂」の表記を入れてもらいたいということです。今おっしゃられているように、「省エネ」に比べて「省 CO₂」という言葉はまだ浸透していない状況ですので、「省エネ」の表記で基本はいいと思っています。

委員： 専門用語を入れてもわかりにくいですから、文言はできるだけ統一する方がよいと思います。いってしまえば、温室効果ガスはほとんど CO₂ のことですから使い分けしようとしたらわかりにくくなります。

部会長： それでは、かなり時間が経ってしまいました。活発なご議論をありがとうございました。事務局としては今日のご意見を参考にして、修正等をしていただけますでしょうか。

それでは、あと事業者アンケートが残っております。そちらの説明をお願いします。

事務局： (資料 3 の説明)

部会長： これにつきましてご意見はいかがでしょうか。

皆さんからご意見が出る前に気づいたことで、2 ページの問 2 の取り組んでいない理由の例のところ③と書いているのですが、この③というのは欄外の「③情報や知識の不足」のことですよ。

事務局： そうです。理由を下の欄から選ぶという内容です。

部会長： それは番号の①～⑤という標記と同じですので、下の丸付き数字と混乱することが考えられます。混乱しないようにお願いします。

委員： 2 ページの問 2 の「④グリーン電力購入」に関係するのですが、グリーン電力基金は今年度で終わります。来年度から全量買取制度も開始されますので、今後のところは、「ー」にするのはどうでしょうか。

部会長：	他はいかがでしょうか。細かい点も、全体的な点でも遠慮なくどうぞ。
委員：	事業者の業種ですけれども、製造業と商業や事務系と比べたら、今の枚方市は商業や事務系が圧倒的に多くなっているのではないですか。平成19年度に策定した計画を見ても結構多くなっていますが、今後はますます多くなるような気がします。
事務局：	CO2排出量の割合からいうと、産業部門と業務部門と家庭部門というのは、枚方市の場合はそれぞれ同じような割合になっています。その中で対策が進んでいないと考えられるのは、オフィスなどの業務部門と、産業部門でいいですと大企業については対策に取り組んでおられますので、中小企業ということになります。
委員：	すべての事業所を対象にされているのはよくわかるのですが、基本的に商業や事務系の業務部門が多くなってくることが考えられます。しかも、その部門の改善が過去からもなかなか進んでいないのであれば、その部門を対象にしたようなアンケートが必要ではないかなと思っています。
事務局：	アンケートを実施するにあたっては、いろいろな業種を選ぶ必要があると考えておりますので、特定の業種に特化することは今のところ考えておりません。
委員：	市民の場合だと、区分はできないと思いますが、事業者の場合はその排出量のウエイトによってアンケート先を選択することができると思います。ただ、バランスよく選択するのがいいのか、それとも特定の業種のウエイトを多くするのがいいのかはわかりませんが。
事務局：	現在、事業者200社のうち、114社については枚方市地球温暖化対策協議会の会員企業にアンケートをする方向で考えております。あとの事業者については、今後選定を行います。
副部会長：	2ページ、3ページの問2と問4ですが、問4の内容を問2の中に入れ込んでもいいのかなと思います。同じ「ESCO事業の導入」というものがありますし、太陽光発電についても両方にあるので。
委員：	同じようなことで、7ページの間1と問2も同じことが書かれています。
部会長：	精査してください。
事務局：	わかりました。
委員：	今、地球温暖化対策協議会に参加されている企業がアンケート対象の200社のうち、半分以上占めているということなのですから、協議会で何か対策されている中身に反映させるとか、それを意識してこの質問は出てきているのですか。
事務局：	地球温暖化対策協議会につきましては、枚方市が実施している取り組みに参加していただいたり、それぞれの事業者が独自で取り組んでいるものもあります。特に、協議会の活動を意識して設問を設定していること

はありません。

部会長： 市として今後考えている施策について聞かなくてよろしいのでしょうか。このアンケートでは、あまりそういった点は入っていないようですが、それはお聞きにならないのですか。

事務局： 新たな事業者向けの施策については、現在検討しているところですので、聞いておりません。

副部会長： 例えば、事業者への補助金などの情報があってもいいかなと思います。いろいろな中小企業の方を対象に講演したときでも、そうした情報はほとんど知らないという事業者がたくさんいるので、「補助金がありますよ」というような啓発も入ってもいいのではないかと思います。

問 2 で、例えば「地球温暖化防止の取り組みに関して補助金をもらいましたか」というようなものがあれば、そういう補助があることを知る意識づけになるかと思います。

事務局： 補助金の情報についても、アンケートの全体の流れや構成を踏まえて検討していきたいと思います。

部会長： 他はいかがでしょうか。

委員： 4 ページの問 5 ですけれども、これは情報伝達媒体について、情報を得る、発信する両方のことで聞いておられますが、この設問はエネルギーに関する取り組みのことだけに関係するのか、非常に違和感があります。企業として、CSR 活動も含めて情報発信するなり、あるいは何らかの活動についての情報を入手するというのであれば全体にまたがるような話なのかなと思います。ここにこの設問を設けることによって、その前までの設問の流れを考えると、ものすごく差があるように感じます。そして、4 ページの問 6 の設問の文章ですが、先ほどの市民向けアンケートと同じように、聞き方を工夫したほうがいいと思います。

また、問 7 はエネルギー問題というのか、やはり地球温暖化対策に向けたエネルギー分野における取り組みということだと思いますので、そのあたりは焦点を絞ったほうが事業者も答えやすくなるのではないかと思います。ここの選択肢を見ても、事業者としてというよりも社会全体のあり様が選択肢になっているように感じますので、選択肢を工夫したらいいかなと思います。

部会長： 他にいかがですか。

委員： 事業者向けのアンケートなので、ESCO とか専門用語があっても、ほとんど認識されていると思うので違和感はありませんが、非常に細かい設問と国の施策のような設問を入れているのが気になります。枚方市のほとんど中小企業だと思うので、中小企業の方に聞く具体的なトーンにしたほうがいいと思います。

委員： 3 ページの問 4 で、LED 照明の導入とかコージェネレーションシステム

とかいろいろ例を挙げているのですけれども、これ以外に例えば空調の高効率化とか、そういったより一般的なものがもう少しあってもいいかと思います。バイオマス発電とかになると導入できそうなところは非常に限られてくると思うので、どちらかというともう少し一般的なもので入れるほうがいいのではないのでしょうか。あまり一般的でないものは、その他で書いてもらう方がいいと思います。

委員： 同じ問4のところですが、発電という表現が大袈裟です。やはり中小企業ということで、今おっしゃられたように具体的な省エネということで空調と熱ぐらいに絞ってもいいのではないのでしょうか。

副部長： 水道水利用から地下水利用にしているところもあります。結構そのことは、省エネになっていると思います。

事務局： 地下水についてはいろいろな条件や条例でも制限があり、なかなか厳しいものがあります。

部長： 他にいかがですか。

委員： 3ページの問4は、空調というような一般的な選択肢の方がいいと思います。先ほども出ていたのですが、取り組めていない企業に対してやはりコストとかの理由があると思うのですけれども、なぜ取り組めていないのかを聞いた方がいいと思います。現在取り組めていない企業に対して、助成などあれば2ページのような取り組みができることを聞ける内容にした方がいいのではないのでしょうか。

部長： 具体の施策と資金や助成などの関連づけが少し見える方がいいですね。

委員： これは市民と違って事業者のアンケートですから、2ページの問1にあるようなものは非常に適切だと思うのです。目標を定めて取り組んでいるかどうか、いわゆる組織としてやっているかということですね。例えば、ISO14001やエコアクション21、自己宣言など、いろいろなものがあると思います。組織ですから、そういうものに対して、方針が決まっていけば自動的にここにあるいろいろな設問は全部対象になってきて、取り組まれると思います。問1から発展していくような設問の仕方があってもいいのかという気がしますし、問2以降の設問との関連性があればよりわかりやすくなると思います。

委員： この事業者アンケート中にも、省CO2というのは出てこないですね。「1. 地球温暖化防止の取り組みについてお尋ねします」というものが最初にあり、先ほどの市民アンケートとは違って、導入部分としてはすごくいい入り方をしていると思います。でも、内容を読み進めていくと、最終的にエネルギーの問題をどうするのかというようなイメージで終わってしまうように感じてしまいます。もう少し地球温暖化防止について、どういうことを企業として社会的責任をもって進めていくのかという、その軸足が見えるような内容にした方がいいかなと思います。

部会長：	他にご意見はございませんか。
委員：	<p>だいたい皆さんがいわれていることに付随してくるのですけれども、市民アンケートと一緒に、2 ページの間 2 の 15 個に集約されているところがどうかと感じています。温暖化対策としてこの 15 個にいろいろ書かれているのですけれども、中小企業とか事務系の事業所だとあまり対応できない内容が非常に多いと思うのです。結局、ISO14001 とかを取得しているところであれば、電気や紙の削減などはほとんど取り組まれていると思いますが、取得していないところもあるわけですね。そういう企業にとっては、ここに集約されすぎてしまっていて、見えてこないことが考えられるというのが少し気になるところです。</p> <p>もう一つは社員に対する教育とか社員への情報提供で、企業の中でも個々の社員の努力というのがついてくると思うので、そのあたりの項目も必要と感じています。</p>
部会長：	あなたの事業所で、環境に配慮した行動を何か取っておられますかとか、自由にお書きにくださいという設問があれば、いろいろな取り組みがあがってくるかもしれませんね。
委員：	<p>2 ページの間 2 で「自社での省エネルギー行動の推進」という項目がありますが、その中に実際は様々な取り組みが入ってくると思います。企業によっては、年 2 回程度、経費削減が主な目的かもしれませんが、省エネに関する細かい指示があり、取り組みを宣言させられるということを知ったことがあります。ですから、事業者の取り組みの実態を知るという意味では、「自社での省エネルギー行動の推進」の中身を聞くことが大切だと思います。</p> <p>あとは、4 ページの間 7 で「エネルギー問題等に対し・・・」という設問がありますけれども、そこを少し工夫して、企業として温暖化防止に対してどういった考え方を持っているかというところを聞いたらいいと思います。</p>
部会長：	<p>以前、CO2 排出量を減らすために、ものすごく低温で部屋を冷やしてから、空調をしばらく止める方が総量としてはエネルギー使用量が減るということを知ったことがあります。企業はそういう工夫をいっぱいしているのだろーと思います。ですから、そういうエコな知恵というものがこれでは拾えないということですかね。</p> <p>例えば「@ISO14001 等の認証取得」という項目がありますが、今は返上するというのも一般化しています。あまりにも取得するのが大変だということで、むしろエコアクション 21 とか、もっと簡単な方に流れていくようになっています。ちょっと幅のある聞き方がいいかもしれません。</p>
委員：	2 ページの間 1 は温暖化防止の位置づけを聞いていますので、これは非常に重要な設問として、最初にあっていいと思います。2 ページの間 2

に表がありますけれども、「①自社での省エネルギー行動の推進」が3ページの「2. エネルギーに関する取り組みについてお尋ねします」に該当すると思います。ずっと見ていくと「⑤環境関連 CSR の実施」というのが、7ページの「4. 企業の社会的責任についてお尋ねします」に該当します。それから「⑦マイカー通勤の規制強化などによる公共交通による通勤の推進」というのが、5ページの「3. 交通についてお尋ねします」になっていますので、バランスとといいますか、書き方の流れとといいますか、それがわかりづらくなっています。

部会長： そのあたりのことについて、全体の流れも含めた上で精査していただけますでしょうか。

事務局： わかりました。

部会長： そうしましたら時間があと10分ということですので、ご意見がございましたら、近々のうちに事務局にお寄せいただきたいということで、アンケートについては閉めさせていただいてよろしいでしょうか。

事務局： できれば来週月曜日の朝までにご意見があれば、事務局までお願いいたします。

部会長： それでは来週月曜日の朝9時までにご意見があれば、事務局までお寄せください。それではどうぞよろしくお祈いします。

あとまだ説明していただいている資料が、参考資料2・3とございますので事務局からご説明をお願いします。

事務局： (参考資料2・3の説明)

部会長： あまり時間がないのですが、質問がございましたらお願いいたします。ちなみに、地球温暖化対策協議会の会員企業数は、これからも頑張って増やしていくつもりなのでしょうか。

事務局： 平成21年4月の設立当初は89社でスタートいたしました。徐々にではありますが、会員企業数は増えているという状況です。

委員： 会員企業の業種内訳というのはどこかを見たらわかりますか。

事務局： 業種内訳はありませんが、企業名は協議会のホームページで公表しております。

部会長： それでは特にならなければ、次回のスケジュールについて事務局からお願いいたします。

事務局： 第3回の検討部会につきましては、2月の下旬に開催させていただく予定にしております。よろしければこの場で委員の皆様の日程調整を詰めさせていただきたいと思っております。今から日程調整表をお渡しいたしますので、ご記入をよろしくお祈いいたします。

<閉 会>

部会長： それでは、これで閉会とさせていただきます。よろしいでしょうか。

本日も長時間にわたりましてご議論いただきましてありがとうございますございました。次回の検討部会の日程につきましては、決まり次第、事務局から連絡があると思いますので、よろしくお願いいたします。